

---

# R e s e t

彗羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

R e s e t

### 【Nコード】

N 3 2 0 9 J

### 【作者名】

慧羅

### 【あらすじ】

積み重なることで、悲しいものが生まれる。

少女は、どうすることもできなかった。  
この気持ちをどうすればいいのかわからない。

少女は今怒りと悲しみの頂点にいた。  
昔から辛いことがたくさんあった。

「あいつの顔ってアウストラロピテクスみたいだよな。」

唯一大切な存在と言える親友の悪口を、男子が言う。  
許せないけど、何も言えなかった。

親友は普通の顔だ。汚いと思わないで、少女は親友の顔を触ったり  
して仲良くやっていた。

大事な親友の悪口を言った。それは許せない。  
けれど、少女は男子が怖くて何もいえなかった。

「偽善者。」

少女は男子からそう呼ばれた。  
バカとかアホとかわかるが、そんな言葉で言われるとは思わなかった。

少女は優しい性格で、誰とも平等に接した。  
その優しさを、彼等は偽善だと呼んだ。

少女は昔の出来事が嫌だった。

忘れたいけど忘れられない忌々しい記憶。

その影響で、少女の中の残酷な一面が出てきてしまう。

それはほんのささいなこと、  
嫌いな男子の事故死や病死、殺害などの絵を描いてそれをお守りに  
した。

おかげで少女のポケットはお守りでいっぱいだった。  
でもそれを見るたびに少女は落ち着きを取り戻した。

今でも、本当に死んでくれないかと思う日があるけれど・・・。

いじめなんて消えない。

それは誰もがわかること。

でもみんないじめを無くそうと言い張る。

馬鹿らしい。少女は思った。

いじめはあると認識すれば楽なのに。

だって男子の陰口を何とかして欲しいって大人に言っても、結局は  
空回りだった。

遠い昔のような記憶はたまに現在の少女に影響を与えた。

それだけではない。

家族も、少女の心を壊そうとする。

「お前は甘やかされて育ったの。」

「そんなんだからお前はクズなんだ。」

「それは思春期よ。」

心の病を抱える少女の姉の言葉は、いつも突き刺さるようなことば  
かり。

病気だから仕方がないってことはわかるが、少女にはきつすぎる。

母親もだ。母親は少女の暗い悩みを全て思春期と片付ける。

長女のように完璧になれなくて心を病んだ次女、完璧ではないと言うが、少女には完璧に見えた。だって少女は勉強もできないければ運動もできないし、手先も器用ではない。

どう見たって、次女より自分の方が落ちこぼれだと少女は思った。心の中で、姉は見下しているのだと思う。

それは少女の被害妄想。しかし可能性はある。

少女はそんな姉に自分の悩みを打ち明かしたことがある。

姉はわかってくれた、そう思った。

けれど、それは大きな間違いだったと知った。

姉は少女の悩みを利用して、母親の育て方が悪いからこうなるんだと母と言い合いました。

少女は笑うしかなかった。

なんだ、結局わかっていない。

人の痛みがわかると豪語して、実際は自分だって妹のことをわかっていない。

ああ、そうだ。姉は病気だったんだ。

なんで姉に話したのだろう。馬鹿みたいだ。

姉は少女を裏切った。

そんな悲しい状況の中で、

少女はひたすら、学校を卒業しようと思った。

勉強も運動も部活も、できなくていい。

ただ、毎日学校に行って卒業まで頑張ろう。

少女はそれを達することができた。

ちっぽけなこと、当たり前なことだ。

けれど少女にとって頑張って卒業したことは誇りだった。

この誇りは自分だけの物だ。

でもそれは、もう中学の話。

今は高校だ。

今のところ悲しい事はないが、

少女の浮き沈みは激しく、ひどくなる。

被害妄想もだ。

友達が自分を相手にしてくれない。

自分は一人だ。

そんなことを考える。

考えた中で、少女は心のどこかで誰かが助けしてくれると思った。

だが、そう考えてはいけない。そんなこと思ってる時点で偽善だ。精神科に見てもらったらと、少女の周りは言う。

だが、自分には理性があるし、自分の気持ちを分析できる。

分析できるなら、自分は病気じゃない。

少女はそう思った。

姉の冷たい言葉もひどくなる。

被害妄想がひどくなる。

段々、友達の悪口を聞くようになる。

先生も信じられなくなる。

高校でもこんな日常になってしまった。

少女は死にたいと思った。

だが、死んでやれると思うと、できない。

それは自分が臆病でどうしようもないからだ。

少女は死ねなかった。

いつそのこと、生まれる前に戻りたかった。  
リセットしたかった。

この日常からはしばらく逃げれそうにない。  
いや、無理だ。

少女は目と耳を塞いで、その場にうずくまる。  
ほら、何も見えない、聞こえない。  
嫌なものも見ることなく、  
嫌いな雑音を聞くことなく、  
真っ暗の中を過ごせる。

幼い頃、暗闇が怖かった少女。  
だが、今では暗闇が少女を落ち着かせている。  
まるで生まれる前に戻ったような感覚。  
少女はこの暗闇が好きでたまらなかった。

やがて、少女は泣き出した。  
ふいに込みあがるなにか、  
少女は初めて大声で泣き叫んだ。

みんな大嫌い、なんで私がこんな目に！

今まで吐き出さなかった感情。  
それ後も少女は泣き止むことなく、涙を流し続けた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3209j/>

---

R e s e t

2011年1月26日07時55分発行